



会 津 大 学 後 援 会 だ よ り

第 34 号

発 行：会津大学後援会（事務局 学生部学生課）

発行日：平成 27 年 8 月 1 日

住 所：〒965-8580 福島県会津若松市一箕町鶴賀

電 話：0242-37-2515（FAX0242-37-2526）

U R L：http://www.u-aizu.ac.jp



学長あいさつ

会津大学長

岡 隆 一

はじめに、評論家であり武道家でもある内田樹氏の
本に書かれている話を紹介します。それは、人類学から
の知見による話のようですが、人間の歴史には「贈与の
文化」が根強く存在しているということです。人間には、
「なにかを与えられるとそれ以上のものを与えようとす
る習慣」があるということです。それは、「返報性の原理」、
つまり「返礼の義務の発生」と言えます。内田氏によると、
私たちは才能を「自分の中深くにあったものが発現した」
という言い方でとらえがちですが、それは正確ではあり
ません。ある程度生きてくれば、現在自分の享受してい
る社会的なアドバンテージのかなりの部分が「自己努力」
による獲得物ではなく、天賦の贈り物だということに
気づきます。つまり「返礼の義務」が無意識に発生し
ているということです。それに対する反対給付義務は、
その贈り物のもたらした利益を別の誰かに向けて、い
かなる対価も求めない純粹贈与として差し出すことによ
ってしか果たされません。このようなメカニズムで人
間は生存し続けることができた、という考え方です。

さて、なぜ上記の話を持ち出したかといいますと、



会長あいさつ

会津大学後援会長

鈴 木 伸 康

会津人の悲願だった「会津に国立大学を」が、形を
変えて平成 5 年に福島県立会津大学としてこの会津の
地に誕生したのが昨日のここのように思い出されます。

しかも、日本初のコンピュータ理工学の単科大学と
して、外国人教員が半数を占め、授業の半分が英語で
行われると聞いたときには、この会津が時代の最先端
を行くのだと心おどらされたものでした。そして、会
津大学からのべ約 5,200 人の卒業生が巣立ち、現在も約
1,000 人の学生が学んでいます。

会津大学後援会は、コンピュータ理工学部学生の

それはこの「後援会」の活動と相通じるものがあるから
です。「後援をする」ことは、金銭的にはもちろん、そ
れ以外の労力の提供も含むものであり、「後援会」とは
大学の後援のみではなく、各種ボランティアも含めた
広い活動と考えられます。そこでは、後援をするものは、
その時点では自分は後援する立場であって、後援され
る立場ではないと思っているかもしれません。しかし、
時間を前後すれば、自分の子供や親類あるいはその子
孫がいつ後援される立場になるか分からないものです。
後援はその意味で、「返礼義務」を果たすことの 1 つで
あるということになります。

これは障がい者のための社会的諸施設が、現在障が
いをもった方へのものであるだけでなく、未来の自
分のためであると想像することと同じようなものです。
これはおそらく多くの方が経験されていることではな
いかと思います。体が元気なときは余計な施設に見えた
ものが、自分がその身になったとき、いかにありがたい
存在になるかを実感するということと同じです。このよ
うにして人間社会の存在の持続性が保たれています。

会津大学の後援会もそのような文脈でとらえるとい
うのも 1 つの考えであるかと思います。もちろん、会津
大学の後援会は、当座には会津大学の在学生への「後援」
を主たるものとしていますが、そこでも、「後援される
自分の子息」がいてもいなくても、後援の意味は減じる
ものではないということを、わずかでも感じていただけ
ることを期待したいものです。

保護者によって組織され、大学における教育の拡充発
展、学生の教養向上、福利厚生などの援助を図るため
に設立されました。これまでは朝食定期券の補助、ク
ラス活動費の補助、就職活動交通費補助、TOEIC テス
ト支援などを実施してまいりました。これからも、後
援会は大学の発展に微力ながら貢献できるよう活動
をして参りたいと考えておりますので、皆様のご支援御
協力をお願い申し上げます。

さて、福島県は東日本大震災や東電の原発事故によ
るさまざまな被害からまだまだ復興途上であります。
全国からのご支援もあり、やっと復興を実感できるよ
うになりました。その中で、全国から集まってくれる
会津大学の学生は、ぜひその社会的使命を感じ取って、
さまざまな場面で会津大生としての誇りを持ってご活
躍していただき、卒業後もこの会津の地を忘れず、全
世界にその活躍の場を広げていただくよう望みます。

また、地域社会としてこの会津、福島県と会津大学

がさらに強固なつながりを持って、地域発展にも貢献していただくよう望んでやみません。

学生の皆様、教職員の皆様、後援会の皆様それぞれのご健康とご活躍を祈念申し上げ挨拶とさせていただきます。

平成27年度会津大学後援会活動について

会津大学後援会では、学生の健全で快適な学生生活を支援するため、福利厚生事業、学生会・学園祭実行委員会への助成、就職活動支援など様々な事業を実施しております。平成 26 年度決算及び平成 27 年度事業計画・予算につきましては、4 月 2 日に開催しました平成 27 年度後援会総会において下記のとおり承認されました。

〈平成26年度会津大学後援会決算〉

(単位：円)

	科 目	決算額
収 入	会 費	12,350,000
	雑収入	1,141
	バス利用料	193,000
	繰越金	2,447,378
	収入計 (a)	14,991,519
支 出	会議費	97,236
	事務費	319,919
	事業費	11,944,613
	学生課外活動助成費	7,000,000
	厚生及び進路対策費	4,130,703
	研修等助成事業費	400,000
	スキルアップ奨励事業費	413,910
	予備費	0
	計 (b)	12,361,768
	当期収支差額 (a) - (b)	2,629,751
	次期繰り越し	2,629,751

〈平成27年度会津大学後援会事業計画〉

年月日	主 な 事 業 の 概 要
平成27年	4月～翌3月 クラス活動助成
	4月～翌3月 TOEICテスト支援 (実施経費、申込手数料他)
	4月～翌3月 就職活動交通費補助、就職活動宿泊費補助
	4月～翌3月 ボランティア活動費補助事業
	4月～ 朝食定期券補助
	4月2日 平成27年度後援会総会及び第1回後援会役員会
	4月3、4日 新入生宿泊オリエンテーション経費補助
	4月19日 春期情報処理技術者試験送迎バス運行
	7月 学生会への助成、学園祭実行委員会への助成
	8月 後援会だより (第34号) 発行
	10月10日 会津大学報告会
	保護者のための就職講演会
	修学相談会
	【同窓会共催】懇親会
	10月10日 第2回役員会
	10月 秋期情報処理技術者試験送迎バス運行
平成28年	3月 後援会だより (第35号) 発行
	3月 第3回役員会
	3月18日 卒業記念パーティ

〈平成27年度会津大学後援会予算〉

I 平成27年度会津大学後援会予算

(単位：千円)

	科 目	平成 27 年度予算額
収 入	会 費	12,350
	雑収入	1
	バス利用料	250
	繰越金	2,629
	計	15,230
支 出	会議費	150
	事務費	500
	事業費	10,826
	学生課外活動助成費	5,000
	厚生及び進路対策費	4,826
	研修等助成事業費	400
	スキルアップ奨励事業費	600
	予備費	3,754
	計	15,230

II 平成27年度記念事業積立金予算

(単位：千円)

	科 目	平成 27 年度予算額
収 入	雑収入	1
	繰越金	1,469
	計	1,470
支 出	該当科目なし	0
	計	0

〈平成27年度会津大学後援会役員〉

役 職	氏 名	
名 誉 会 長	岡 隆 一 (会津大学長)	
会 長	鈴 木 伸 康	
副 会 長	奥 山 和 則	菅 野 孝 之
監 事	加 藤 知 子	羽 入 崇 子
委 員	加 藤 純 雄	鈴 木 絹 子
	山 口 郁 代	高 野 延 光
	伊 藤 智 実	長谷川 由 香
	大 庭 一 哉	
常 任 委 員	齋 藤 敬 之 (会津大学事務局長)	

学内ニュース

平成26年度学位記授与式



平成 27 年 3 月 20 日（金）、会津大学講堂にて平成 26 年度学位記授与式が開催されました。コンピュータ理工学部卒業生 196 名、大学院博士前期課程修了生 58 名、大学院博士後期課程修了生 5 名、論文博士課程学位取得者 1 名の計 260 名が、それぞれの進路で社会への貢献を目指します。

授与式では岡隆一学長が学部卒業生総代の北澤拓也さん、博士前期課程修了生総代のチン・ヴィエット・フッ

クさん、博士の後期課程修了者及び博士論文学位取得者それぞれに学位記を授与しました。岡学長は、「大震災から 4 年が経過しました。これからは復興を本格的に稼働、加速する時期です。皆さんは、IT 技術者として復興へ参加、貢献することを大いに期待されています」と式辞を述べました。答辞では、学部卒業生代表の石川健太さんが「困難に直面する今日であるからこそ、それぞれの専門分野を前に進め、世界に発信していきたい。そのことで、多くの方々に希望をもたらすことができるよう、邁進していく所存です」と誓いました。

授与式終了後には、記念写真撮影及び個人学位記の授与、学生食堂にて後援会主催の卒業記念パーティが行われました。学生生活最後となるこのパーティは、和やかな雰囲気の中で行われ、参加者たちが歓談や記念撮影を楽しんでいました。

在学生表彰



平成 27 年 3 月 30 日（月）、平成 26 年度各学年の成績優秀者に表彰状が贈られました。

会津大学では、GPA（Grade Point Average）による成績評価を導入し、学部生各学年のポイント上位 3

名を表彰しています。GPA は大学における成績評価方法の国際標準として認知されており、就職や大学院への進学、海外留学にも重視されているものです。

表彰式では、東原恒夫学生部長が表彰状と副賞の図書カードを成績優秀者にそれぞれ手渡しました。

平成26年度成績優秀者

学年（受賞時）	氏 名		
1	本多 健	佐藤 功二	万城目昌哉
2	齊藤 智博	吉田 将司	小林 将也
3	渡部 智史	美馬 久行	塩澤 隼人

平成27年度入学式

平成 27 年 4 月 2 日（木）、平成 27 年度入学式が挙行されました。

当日は、春らしい暖かな陽気に恵まれ、内堀雅雄福島県知事をはじめとするご来賓の方々をお迎えし、和やかな雰囲気の中にも厳粛な式となりました。式では学部入学生 247 名、博士前期課程 44 名、博士後期課程 6 名、合計 297 名全員の名前が読み上げられ、岡学長が入学許可を宣言しました。

岡学長は入学生を歓迎し、「福島県は復興に向けて、本格的な段階に入っており、皆さんが学ぶ ICT 技術を通じての貢献が期待されています」と式辞を述べま

した。入学生を代表して阿部遥香さん（コンピュータ理工学部）、田茂井圭祐さん（博士前期課程）が宣誓を行いました。

入学式の後には入学生全員での記念撮影が行われました。記念撮影の後には、軽音部によるバンド演奏や、在学生によるサークル活動紹介の声が高く等、学内は新入生を歓迎する活気で満ち溢れていました。



平成27年度新入生オリエンテーション

平成 27 年 4 月 2 日から 6 日にかけて、平成 27 年度新入生オリエンテーションが実施されました。

新入生オリエンテーションでは、これからの大学生活で必要な知識（ワークステーションの使い方や授業

の取り方、進路について等)を学びつつ、これから4年間を共に過ごす仲間達との親交を深めることも目的としています。4月3・4日にかけて行われた宿泊オリエンテーションでは、先輩学生が考えたレクリエーションやクラスミーティング等を実施しました。最初は緊張の面持ちだった新入生も、オリエンテーションが終わる頃には笑顔も増え、新しい仲間と談笑する姿も見られました。



会津大生参加団体が「Googleインパクトチャレンジ」支援対象団体に出

平成 27 年 3 月 26 日 (木)、Google インパクトチャレンジ※決勝が開催されました。コンペティションでは、特定非営利活動 (NPO) 法人福島インターネットテレビジョン (プロジェクト名: 自殺を防止するセーフティネット) を代表して木元雄太さん (学部 3 年) がプレゼンテーションと質疑応答を行いました。木元さんの発表は、審査員からも非常に高い評価を受け、また、ブースでの展示では、来場者から多数の好意的なコメントが寄せられました。

NPO 法人福島インターネットテレビジョンは、入賞した 4 団体には選ばれませんでした。ファイナリスト 10 団体として、Google ならびに Electronics and Telecommunications Research Institute (ETRI) より金銭・技術的支援の提供を受けることとなりました。

NPO 法人福島インターネットテレビジョン学生代表木元さんは「今回は残念ながら入賞できませんでしたが、入賞を逃した 6 団体にも助成金の提供があることが最後に発表され、とても驚き喜びました。このことから、私たちに大きな期待がされていることを実感しました。一般投票期間には、本当に多くの方から応援いただきました。心より感謝申し上げます。しかし、本当に活動が始まるのはむしろこれからです。今後は気持ちをより引き締め、大学内外の方と連携して「自殺を防止するセーフティネットワーク」を展開していきます」とコメントしました。



※Google インパクトチャレンジとは：日本国内の非営利団体を対象に、テクノロジーを活用して、よりよい社会を作るアイデアを募集する取組のこと。

会津大生が第2回中小屋福寿草(こがね)まつりに参加



平成 27 年 4 月 12 日 (日)、南会津町中小屋 (なかごや) 地区にて、「第 2 回中小屋福寿草 (こがね) まつり」が開催されました。前回に引き続き、「会津大学『ふくしま』の魅力を発見、世界に発信し隊 (※)」のメンバーたちが、今回もスタッフとして参加しました。

南会津町山口にある中小屋地区は、福寿草の群生地

として知られており、地区の大きな魅力となっています。福寿草は地元では「こがね」と呼ばれており、大切に育てられています。

祭の当日は好天に恵まれました。まだ雪の残る遊歩道では、福寿草が金色の花を咲かせていました。祭には子供たちから高齢の方まで参加し、会津大生のメンバーたちも中小屋地区らしい魅力の詰まったイベントを満喫しました。

学生代表の羽入達也さん (学部 3 年) は、「今回の福寿草祭りでは、司会進行という大役を任せられ、緊張しましたが、これまで中小屋集落の方々と一緒に作り上げてきた祭りを盛り上げようと、一生懸命頑張りました。中小屋集落の方々との交流を通して、人と人とのつながり、そして、会津やふくしまについて色々と知ることができました。今後も世界中に中小屋の魅力を発信したいと思っています」と感想を述べました。

※「会津大学『ふくしま』の魅力を発見、世界に発信し隊」は、地域特性を生かした農作業体験、各種行事への参加、美味しい食文化等、体験を通して「中小屋地区の知られざる魅力」の発信に努めています。「昨年度の蒼翔祭では、中小屋地区のみなさんとおつきたてのお餅や特産の野菜を販売する屋台を出店し、好評を得ました。その他、国際交流等各種イベントにも参加しています。その他、国際交流等各種イベントにも参加しています。

会津大学の海外派遣留学支援事業

<研修報告>武田唯さん（平成 26 年度海外中期派遣 ローズハルマン工科大学：米国）

私はアメリカのインディアナ州にあるローズハルマン工科大学に単位互換を目的として半年間留学しました。授業は今まで経験したことのない実践的な内容で、秋学期と冬学期でそれぞれ3科目ずつ履修しました。プログラミングの授業では、ロボットをコントロールしたり、ゲームをつくったりするチームプロジェクトがたくさんあり、自分のプログラムによってそれが実際に動いた時はとても感動的でした。エンジニア部門ナンバー1の大学であり、コンピュータ関連の授業で得る知識や技術はとて多く、また生徒達はとても意欲的で活気ある授業が楽しかったです。冬学期になると授業の理解度が秋学期と比べると断然上がり、それを実感できることも嬉しかったです。留学中にはさまざまな国の人との交流やア

平成 27 年度派遣予定

メリカの歴史や文化にも触れる経験ができました。難しい環境で単位を取れた事や留学後 TOEIC で 300 点程スコアがあがったことなども自信につながりました。この経験は今後の自分の人生に大きな影響を与えるものとなったことは間違いありません。今後このようなチャンスがあればまた挑戦したいと考えています。



*JASSO = 日本学生支援機構

		研修期間	[派遣時学年] 派遣学生
平成 27 年度	海外中期派遣 【予定】	平成 27 年 8 月～平成 28 年 3 月 (ローズハルマン工科大学 (RHIT) : 米国) *JASSO 奨学金	[学部 3 年] 森野未沙登、根本紗緒里
		平成 27 年 8 月～平成 27 年 9 月 (ポルト大学 : ポルトガル)	[学部 4 年] 古河智弥

学生作成ビデオ紹介コーナー

昨年度より始まった Global Experience Gateway は、アメリカ、ニュージーランド、大連への短期留学（大連はインターンシップ）のプログラムです。留学という貴重な経験をさらに有意義なものにするために、参加学生は日本語が話せない人に自分で交渉&インタビューをして5分程度のビデオを作成します。ビデオには英語字幕を付け、You Tube にアップロードし様々な方が閲覧できるようにします。今回はその中

から、納谷さん、杉井さん、金井さんのビデオをご紹介します。是非ご覧になってください。

■学部1年 納谷かごめさん (RHIT 短期)

<http://youtu.be/Ioltw9Bz3Vs>

■学部1年 杉井雄汰さん (RHIT 短期)

<http://youtu.be/ug8zYesjTf8>

■学部2年 金井稜太さん (ワイカト大学短期)

https://youtu.be/2hG_2HCt68s

※学年は派遣時の学年



<<金井さんからのメッセージ>> このビデオはニュージーランド留学時にお世話になったホストファミリーの祖父・ビルにインタビューしたものです。事前に、彼に発音の仕方や質問の早さなどの指導を受けたおかげで、何度か失敗はしたものの、許容出来るレベルの動画を撮る事が出来ました。インタビューに快く応じてもらったビルには大変感謝しています。最後に、留学自体はたった3週間という短い期間であり、英語がはつきり聞き取れてネイティブ並に喋る事が出来るようになる、という事もありませんでした。良くも悪くも様々な出来事がありとても良い経験が出来た留学でした。

<<納谷さんからのメッセージ>> 私は今年の三月にローズハルマン工科大学に3週間留学をしました。会津大学と RHIT は同じ理系の大学ですが違いはたくさんありました。会津大学はコンピュータに特化した大学ですが、RHIT はコンピュータだけでなく、生物系や物理系などあらゆる理系の学科に分かれており、また私立大学です。さらに、ほとんどの学生が寮で生活している、約半分の学生は留学生やインターナショナルスチューデントであるなど短い期間でもたくさんの違いを見つけることができました。そんな中で生まれた疑問が、どうしてここの学生達はわざわざ国を超えて、たくさんのお金をかけてこの大学に進学することを選んだのか、ということです。その疑問をストレートに「この学校の良い／悪いのところは？」とぶつけることで作られたのがこの動画です。様々な環境に置かれている学生にインタビューしていますので、それぞれの視点での RHIT が見られると思います。この動画を通して RHIT に、そして留学に興味を持てただけたらと思います。



学生の活動紹介 —このコーナーは学生が書きました—

学生会活動紹介

今年度学生会長になりました丸山健です。よろしくお願い致します。私たち学生会執行部は、学生の大学生活を充実させるため日々活動を行っております。この場をお借りして学生会執行部の活動について紹介させていただきます。

平成 26 年度の主な活動

学生会総会運営

学生会総会では、学園祭及びサークル等の活動における予算の制定や、学生会則の変更といった重要な決定が行われます。学生会総会には、定期的に開かれる決算総会(4月)、予算総会(5月)と、必要に応じて開かれる臨時総会とがあり、私たちはその告知から運営までを行っております。また、予算総会前に開かれる予算編成委員会の開催も私たちの仕事です。

FD 会議への参加

FD(Faculty Development) とは「大学教員の教育能力を高めるための実践的方法」のことです。昨年度札幌大学にて行われた会議に、3名が代表として参加し、教授会にて成果を報告させていただきました。

平成 27 年度活動予定

- 10月 学園祭へ企画出展
- 12月 クリスマスパティー
- 平成28年 4月 新入生歓迎会、決算総会

イベント運営

私たちは例年、学生向けのイベントとして、クリスマスパーティと新入生歓迎会(※写真)を開催しております。クリスマスパーティでは、音楽サークルと共同でコンサートも開催しており、音楽サークルの活動成果の発表の場ともなっております。また新入生歓迎会では、新入生を楽しませるとともに、サークル決定の参考となるよう、各サークルの紹介を行っております。



学園祭実行委員会

こんにちは、学園祭実行委員会です。私たちは10月10日(土)、10月11日(日)に開催する蒼翔祭に向けて準備を行っています。今回は現在予定している企画を簡単に紹介したいと思います。

☆ 企画紹介 ☆

【ステージ企画】

- 大抽選会
- コスプレコンテスト
- 早食い大会
- サークル対抗ドッキリBOX



【多文化スペース】

- 伝統工芸体験
- 茶の湯塾
- B級グルメ

【その他】

- ゲームラリー
- フリーマーケット
- 射的
- ここはどこ?

- 花火
- ポスターショー
- ふわふわキビタン
- ツリーイング



今年の蒼翔祭テーマ『結』に合った、地域の人ばかりでなく多くの人にお楽しみ頂ける学園祭を目指し準備中です。他にも例年おなじみのサークルや留学生による模擬店や企画、同時開催オープン

キャンパスも行います。より会津大学を知ってもらえるきっかけになること間違いなし！新しい企画盛りだくさんで、たくさんの素敵な思い出を作れるような蒼翔祭にしていきたいと思います！

委員一同、皆様のご来場をお待ちしております!!

「学|生|相|談|室|か|ら|」 「一人一人に固有の時間の流れを大切に」

昨年度一年間の学生相談室の利用状況を、総相談数に占める相談内容別の割合で、下図に示してみました。学生だけでなく教職員や卒業生、ご家族からの相談も含まれています。(2014年度総相談数822件、電話やメールでの相談も含みます。)

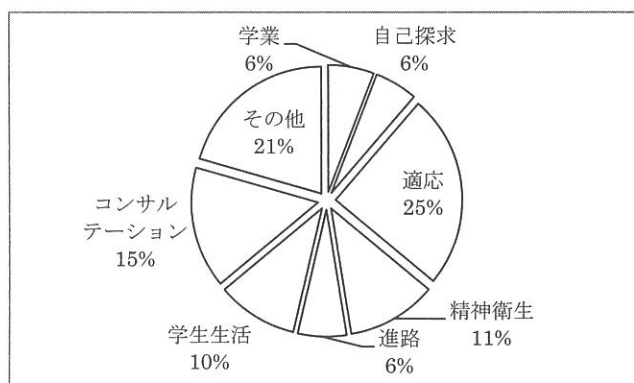
図の「学業」は、授業の理解度や単位取得などに関する相談です。気がかりの内容や度合いに応じ、先生や先輩、仲間とのつき合い方、履修科目の選択や履修時期、修学支援の必要性等が話し合われます。「自己探求」は、自己理解を深める、より自分らしい生き方や対人関係の持ち方を考える、就職活動に向けて自己分析を深める等、学内外の資源を有効に活用しようとする意欲的な学生からの相談です。「適応」は、日常生活に困難を抱えながらも、どうにか生活が維持できている学生からの相談で、性格と相まって、対人関係や修学上のこと等で学生は困難を覚えています。「精神衛生」は、問題が昂じ授業に出られなくなる、医療機関を利用する、健康を案じて教員や家族が(時に学生を伴って)相談にみえる、相談室が医療機関を紹介する場合等を含みます。意欲、生活習慣、性格上の問題が表面化し、4年以上をかけて卒業される方も珍しくありません。「コンサルテーション」は、学生への対応方法をめぐる教職員からの相談や外部医療機関との連携協議です。

相談室には、学部と修士を5年間で修了する飛び級制度利用の学生も来談されます。社会人としてのスタートを一足早く切ろうとする学生たちですが、成長には時間が必要です。専門外のことで躓くことも珍しくありません。また、発達障害を抱えていると思われる学生もこのところ増えています。個性豊かで、興味のあることには高い集中力を発揮し真面目です

が、対人関係を苦手とします。困っていても自分から支援を求めることは稀なので、周囲の関わり方が大事になります。問題に直面した時の周囲、特にご家族からの理解は学生のこころの支えです。

大学では、物理に数学、英語、コンピューターと、幅広い授業が入学と同時に並列スタートしますので、学業に困難を覚える学生は少なくありません。春は、新入生が賑やかに談笑しながら歩く姿が目につく時期ですが、静かでまわりは存在に気づかない、あるいは入学早々大学に出て来なくなる学生もいます。順調に学生生活を過ごしてきた学生は、困難に直面すると、それまでの活動が停滞しがちになって焦ります。しかし、時には立ち止まって自分の在り方を見直すことも必要で、躓きは自らの課題と向き合う貴重な機会です。急ぎ過ぎの学生、のんびりし過ぎているような学生と様々ですが、お話を耳を傾けていると、停滞時間は無駄ではなく、一人一人が自分に必要な貴重な時を過ごしていることがわかります。そして、本人がそのことに気づくと、相談室への足は自然に遠のくようです。

図：相談内容内訳 (平成 26 年度)



学生相談室 カウンセラー 林幸子 電話：0242-37-2610 メール：counseling@u-aizu.ac.jp

平成26年度進路結果

会津大学の平成 26 年度卒業生の就職内定率(就職者/就職希望者 平成 27 年 5 月 31 日現在)は学部が 95.7%で、前年同期差 1.9 ポイント増、博士前期課程は前年同様に 100%でした。また、厚生労働省調べによる北海道・東北地区の大学の就職内定率は 95.3% (前年同期比 2.5 ポイント増)でした(平成 27 年 4 月 1 日現在)。

内定先企業は、学部で約 2 割、博士前期課程で約 1 割の学生が福島県内の企業です。業種別に見ると、学部では情報系企業(※1)が 7 割、メーカー系企業(※2)が約 1 割、その他の企業で 2 割程度となっています。

博士前期課程は、情報系企業が 5.5 割、メーカー系企業が 2.5 割となり、学部と比較してメーカー系企業へ就職する学生が増える傾向があります。

平成 27 年度卒業予定者の就職活動については、景気の良さを反映し「売り手市場」の様相です。しかし、企業が「質」を重視する「厳選採用」は続いており、採用予定者数に満たなくとも採用活動を終了するという企業が多数です。また、女性の社会参画に対して国が数値目標を掲げていることもあり、各企業とも女子学生の採用に積極的です。さらに、就職活動(採用活動)

の期間が短くなったため、企業側は早めに優秀な学生を確保しようと就職支援会社のサイトや自社サイトでの採用活動だけでなく、ハッカソン（※3）等のコンテ

ストやインターンシップ、リクルータによる研究室訪問、ターゲット校での学内合同企業説明会への参加等に力を入れています。

※1 情報系企業：情報システム構築やソフトウェア開発、WEBサービス、コンサルティング等、内容は多岐にわたる。例) NTT-ME、JR東日本情報システム 等

※2 メーカー系企業：大手電機メーカー等を含む「ものづくり」企業。例) 東芝、日立製作所、アルパイン等

※3ハッカソン：ソフトウェア開発分野のプログラマやグラフィックデザイナー等が集中的に共同作業をするソフトウェア関連プロジェクトのイベント。

平成 26 年度進路決定状況(平成 27 年 5 月 31 日現在)

		進路希望	決定者数
就 職	民間企業	133	127
	県内	25	25
	県外	108	102
	教 員	4	4
	公務員・団体等	2	2
	起業・家業	0	0
合 計		139	133
就職率		95.7%	

		進路希望	決定者数
進 学	本学大学院	40	40
	他の大学院	10	10
	海外の大学院	0	0
	合 計	50	50

主な就職先

【県外】

NTT-ME、フコク情報システム、NRI データ・テクニクス、野村総合研究所、三井情報、京セラコミュニケーションシステム、日立ソリューションズ東日本、三菱インフォメーションシステムズ、MUFJ インフォメーションシステム、ABB 日本ベレー、トヨタ情報システム愛知、航空情報通信、YAZ、ドワンゴ、サイバーエージェント

【県内】

会津オリンパス、富士通アイソテック、富士ゼロックス福島、エフコム、朝日システム、シンク、東日本計算センター、会津中央病院、東邦銀行、大東銀行

| 修 | 学 | 支 | 援 | 室 | Office for Learning Support

修学支援室は、講義や演習だけでは内容を十分に理解できなかった際に、先輩に相談・質問できる場として研究棟 2 階に設けられています。支援室内には本学卒業生が務める修学支援員および大学院生・学部生によるアシスタント(TA/SA)が待機しており、微積分や離散系論などの数学系科目からワークステーションを使ったコンピューター系科目まで幅広く対応しています。

また、本年度より新設されたグローバルラウンジには英語教員が待機し、英語に関する質問も気軽に行える環境となりました。本ラウンジで定期的に行われる TOEIC 対策セミナーや留学生とのランチミーティング、洋画上映会には多くの学生が参加し、英会話の技術向上を目指しています。

数学補習

4～6 月には新入生向けに数学の補習講座を実施しています。本学では数学科目として線形代数と微積分を学ぶため、高校で数学Ⅲを履修していない、あるいは苦手としている学生には積極的な受講を勧めています。この線形代数・微積分の基礎固めを目的とした講座は、大学の講義と並行して行うため「前回の補習で学んだ公式を使ったら、講義の課題が解けた。自発的に参加してよかった」と努力が実を結んだ喜びを報告してくれる学生もいます。



修学支援室 電話 0242-37-2758 FAX 0242-37-2747 (研究棟2階246E)
E-mail ofls@u-aizu.ac.jp URL <http://www.u-aizu.ac.jp/campus/support/learningsupport.html>

後援会事務局からのお知らせ

10 月 10・11 日(土・日)の 2 日間にわたり学生主催の「蒼翔祭」(学園祭)が開催されます。後援会では蒼翔祭に合わせて、10 月 10 日(土)に「大学報告会」「就職講演会」「保護者のための各種相談会」の実施を予定しています。詳細については同封の案内をご覧ください。みなさまのご参加をお待ちしております。